

## 五条坂・茶わん坂ネットワーク設立趣意書

五条坂から茶わん坂を登り、清水寺に至る一帯は、一筋の道でつながる京焼・清水焼の発祥地であると同時に、数多くの名工が代々その特異な技法や意匠を継承してきた土地柄である。ここには曾て焼き物の製造、販売の如何を問わず、また焼き物業に携わっているか否かを問わず、焼き物を媒体とした地域住民の一体感があつた。

一方、近年の急激で様々な環境変化によって、この地域が「京都にあって固有の文化ゾーン」であるという事実そのものが消滅しつつあるばかりか、地域内のコミュニティーの繋がりさえも希薄化している現実がある。私たち有志はこのことを深く憂慮し、地域再生＝活性化の為に何をなすべきかを議論し、例え微力であっても、地元の私たち自身が中心となって、いまこそ行動に移すべき時であるとの使命感をもって立ち上がることを決意した。

人々の繋がりが希薄になったとは言え、幸いにも、現在もその蓄積された作陶の技術的・精神的土壌の上に、伝統と調和しつつ、斬新で独創的な創作活動がこの地から国内外に広く発信されているという現実の姿がある。つまり、五条坂・茶わん坂一帯が陶芸を中心とする美術工芸の伝統と創造の拠点としての位置付けには国内外を問わず確固たるものがある。

即ち、ここに志を同じくする者が集まり、共通の意思に基づいて、「地域の宝」とも言うべき、焼き物文化を中心とした地縁で結ばれた人々による、地域一帯となったイベントや住民参加の文化的活動の企画、芸大系の大学などを巻き込んでの催事などを実行することによって、環境の保全と地域活性化を図ることは、将来的にも大きな意味を持つものであると確信するに至った。

最初は文字通り手弁当で始め、個々に賛同を呼びかけ、先ずホームページを立ち上げた。これに呼応し地元根差した陶芸作家や美術館のオーナーなどが共通の意思をもって設立に参加して頂けたことに大きな希望を持てた。また「文化の発信」にITの活用は不可欠であるが、理想を同じくする協力者が出来たことも実際助けとなっている。当初の僅かな資金で一つの企画を実行するには相当の期間を要すると思えたが、実際に動き出してみると、予想を遥かに超えて大きな反響があり、この声にあらためて地域の人々の関心の高さと活動の必要性を自覚させられた。

言うまでもなく、この活動は個別の私的な営利目的の為に始めたものではない。業種業態の違いを超え、より多くの賛同を得て、公益にかなう種々なる企画を実行、継続して行かなければならない。その過程で真の目的が理解されると確信する。公的な機関に於いても私たちの活動が理解されつつあることは大いに自信と勇気を与えてくれている。私たちはここに時代の変化に即応した「固有の文化ゾーン」の構築を目指して、真摯なる活動を続けることを決意した次第である。